

12月議会に向けて

埼玉県和光市議会議員 菅原 満

客員研究員(2011年12月)

時期的には、やはり来年度予算編成が主になるかもしれませんが、予算要望した内容の扱い等を確認する、そして、震災対策はもちろん、厳しい財政運営を強いられる中、どのように各自治体が抱える課題に取り組むのか質していく議会になるのかと思います。読者諸兄の方が詳しいかと思いますがヒントとしてご覧下さい。

【震災対策関連は・・・】

東日本大震災から8か月余が過ぎ、また、水害も数多く発生しました。今後は、雪害対策も加わってきます。

さらに、日本においては、火山災害への備えも必要となってきます。

今なお、復旧復興に向けての努力が行われています。

自治体間の職員派遣という行政間の協力も行われています。自治体同士の連携が一層重要視されています。そして、派遣された職員以外への経験を共有することも一考かもしれません。

相互応援協定を結んでいる自治体も多いと思います。しかし、いざ発生した時に、相互連絡は可能か、移動手段の確保はできるのか、各ニーズの意思の疎通は図れるのかといった確認が改めて必要ではと考えます。

大規模災害では、近隣自治体も被災し、相互応援が当て

はまらない場合も出てくることも想定に入れることも考えられます。

「心のケア」を行う体制整備はどうか。発災後の医療体制については、今回の震災で多くの課題を突き付けられました。医師・保健師・臨床心理士・精神保健福祉士という専門家との連携はどうか、避難所でのケアの確保、さらには、災害発生後、ある程度の期間を経過しても、ケアが必要とされる人への対応はどうか。「災害弱者」への対応はどうか。要援護者対策の進捗状況はどうか。

各都道府県の地域防災計画の見直し方針が出てきているところもあるかと思えます。市町村の地域防災計画やマニュアルへの波及は、どう見ているのか。それぞれの地域にあった、確認が考えられます。

さて、自治体にとって住民の「安心・安全」を確保することは重要なことです。しかし、安心感によって、いざという時の備えが弱くなっている意味がありません。自立的に住民としての心構え、備蓄、家族との連絡、地域とのつながりの大切さをどう啓発していくかも課題として挙げられます。

放射線に関して、自然界の放射線量とICRPの1mSvとの関係等確かな情報をどう伝えるかも課題です。見えないだけに、不安の払しょくや安全確保をどう図るのか。

【自治体の数ほどの工夫の余地がある・・・】

平成23年10月11日現在、市区町村の数は、1742団体となっています。自治体は、一様ではなく、面積で

は約2177平方キロと大阪府、香川県より大きい市があれば、人口、人口密度、産業構造、都市型、山間型、都市部と山間部の両面を持っている自治体等様々なものとなっております。

自治体の行政は、いわゆるナショナル・ミニマムと共に、このような地域性を勘案して考えていくことも必要ではと考えます。

日本全国一様な基準で比較し、「優劣」、「順位づけ」を探すことを気にするのではなく、「特性」や「独自性」を見出していくこと、将来への「備え」を検討していくことが必要です。

議会のあり方についても、同じく、それぞれの自治体に応じた工夫があつてしかるべきだと考えます。議員においては、やはり属する自治体の事業内容、政策課題をじっくり確認して執行状況のチェックや提案につなげていくことが大切でしょう。

【気になる平成24年度予算編成・・・】

各自治体では予算編成方針に基づき、間もなく編成作業が佳境を迎える時期かと思えます。「第三次補正予算」の動向も含め、国の動きを注視していく必要があります。

また、緊急雇用、介護処遇改善、妊婦健康診査等基金利用といった事業、限定的な財政措置による事業を洗い出し、今後の事業継続、財源見通しはどうか確認しておくことが考えられます。

関連して、平成23年度執行の事業の進捗状況、効果の確

認をしておくことも考えられます。

【国保や介護の動向は・・・】

国民健康保険の運営には、この市町村も苦慮しています。ここに、広域化という動きが加わってきています。保険料（保険税）の水準、算定方法、共同安定化事業といった内容がどう影響を受けるのか。広域化方針を含め確認しておくことが考えられます。

介護保険は、平成12年度に導入され、平成24年度からは第5期の事業計画が始まります。これも、策定作業が進められているところかと思えます。介護保険利用のニーズ、実情、負担と財源、将来の高齢化推計等を確認しておくことが挙げられます。

【財政運営の見通しはどうか・・・】

多くの課題に対処するには、当たり前ですが財源の裏付けが必要です。臨財債の平成25年度から変わることでの影響、指定管理制度等長期継続契約の見通しは。

また、財政運営の状況について、改めて、各会計決算と決算カードをチェックし、抱えている課題を確認しておくことも必要かもしれません。普通会計と一般会計とでは、会計の扱いが異なる部分が多々あります。突き合わせての確認も考えられます。

著者は、財政関連の数値を何でもかんでもグラフや図にしています。手間がかかりますが、自分で作ると意外な発見や確認ができます。

図書紹介・広瀬弘忠著・人はなぜ逃げおくれるのか集英社新書